

# ニッポン ドクター和の 臨終図巻



長尾和宏 (ながお・かずひろ) 医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終図巻』として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

医療現場では、相変わらずマスクや防護服が不足がちです。マスクに関しては、皆さんも相

当にお困りでしょう。しかし、「先生、使ってください」と、送ってくださる善意の人が何人もおられて、感謝の言葉もありません。

一方、メルカリなどのサイトでは、体温計やパルスオキシメーター(低酸素状態を簡単に発見できる医療機器)を買い占め高値で転売している人がいるそうです。この状況でお金儲けかと、怒りさえ覚えます。

大手電機メーカー、オムロンの元社長で名誉顧問をされていた立石義雄さんが、京都市内の病院で4月21日に亡くなられました。享年80。死因は、新型コロナウイルス感染症との発表です。

## 154 オムロン元社長 立石義雄



この連載で、新型コロナウイルスで亡くなった方を書くのは、これでもう3人目です。立石さんは、4月5日に医療機関を受診したところ肺炎だとわかりました。PCR検査の結果、翌日、新型コロナウイルスと判明したといえます。

志村けんさんや岡江久美子さんも、入院してから2週間前後であつという間に旅立ってしまいました。症状が出てから病状の進行が早すぎる……これが、新型コロナウイルス感染の恐ろしいところです。

新型コロナウイルスの場合、軽度の肺炎を起こしても、息苦しさ(呼吸困難感)をあまり感じない人が多いようです。人間の動脈血中には、本来、酸素濃度を感知する受容体があり、舌やのどの神経などと連絡を取り合っています。しかし、新型コロナウイルスは、この受容体をも攻撃するため、息苦しいと感じる機能を麻痺させてしまうようです。あくまでも仮説ですが、嗅覚や味覚が低下するという特有な症状も、それぞれ知覚神経が攻撃されているのでしょうか。

そして、自覚症状が出たときにはかなり重症化しているのです。日々悲劇が起きています。こうした状況を忌避するためには、パルスオキシメーターが有効です。血中の酸素量を、指に挟むだけで簡単に測れるこの電子機器は日本で開発されたものです。在宅医療にはかせない機器のひとつで、血圧計と同様、1万円前後で市販もされています。

政府は、マスクよりもまず、体温計とパルスオキシメーターを全家庭に配布するべきだと私は考えています。今大切なのは、国民全員にPCR検査を! と叫ぶことより、新型コロナウイルスによる隠れ肺炎を見つけて、重篤化する前に厳重に管理、介入することではないでしょうか。

「企業は社会の公器であるべき。利益はあくまで結果。大切なことは社会の役に立つこと」をモットーに、こうした医療機器を作られた立石さんの想いを、無駄にいたくありません。

# 無駄にいたくはない掲げた存在意義